

# 地域ウオッチ

5

城南コミュニケーション通信員

今月のレポーター

城南小学校5年生

住みよい「みなみ」守り隊!

城南小学校では、総合学習「みなみの時間」に、地域のことについて調べます。今回は、田村池と太井池でたくさん見つけた渡り鳥を通じて、環境について考えたことを発表します。



田村池は、県内で一番カモくんがやって来る池で、冬は千羽もやって来るんだ。ほくの友達だよ。

ほくたちが住んでいる田村池は市内で一番大きなため池だよ。



たくさんの鳥が訪れるきれいな池を守りたいと願ってポスターを作りました。みんなも鳥を大切に。

城南コミュニケーションセンターに、わたしたちが作ったポスターやパンフレットを展示しています。たくさんの人に読まれるとうれしいな。(☎2410981)



地域の人みんなで、田村池や太井池の周りの自然を守っているよ。白鳥が元気だとうれしいね。



19種類も鳥がいてびっくり! 見たこともない鳥や知らなかった鳥もいたよ。

## いつも笑顔で!

65

秋山 嘉則さん  
(二条町・75歳)



「農業は仕事ではなく運動だ」と思うと苦にならんなあ」と話す秋山さん。奥さんと一緒に励んだ農業に始まり、戦中戦後の生活、趣味のベタンク、奥さんと出掛ける長寿会の旅行など楽しい話ばかりです。「毎日忙しいのが元気の秘訣かな」と笑顔で語ってくれました。

## 城南サッカースポーツ少年団

コーチや保護者といつも交わされる「ハイタッチ」。1年生から6年生まで68名の団員が、サッカーを通じて親睦を深め、豊かな学校生活を送れるように、日々汗を流して活動しています。練習は、熱心なコーチが基本から高度な技術まで幅広く指導してくれています。サッカー以外にも、親子サッカー教室やクリスマスお別れ会など、色々な行事を行っています。それぞれの将来の夢に向かってがんばっています。



〈連絡先〉福井浩文(田村町・☎21-5730)

# 丸亀 今昔

まち・むら・しま ④

## 町人町―三浦14町

完成した丸亀の城下町には、17の町人町があり、江戸時代には三浦十四町と記され、すべて外郭外にあった。御供所町・北平山町・西平山町の三浦と、南条町・下南条町・塩飽町・横町(現本町)・浜町・通町・富屋町(旧兵庫町)・葭町・米屋町・魚屋町・宗古町・松屋町・農人町・福島町の14町である。第二次世界大戦の戦災を免れた丸亀の町は、近代になって一部新しく道路が敷かれるなどの変化はあったが、町割りや道路幅など、江戸時代の状況を基本的に伝えている。

城下図には、町名が道路に記されている。「両側町」といって、その道路を挟んだ両側が一つの

## 町の政治

町だからである。町家は一般に玄関部分が狭く奥に細長い構造をしており、家の裏側部分で隣町が接していた。

江戸時代の城下町は、村と同様に住民自治を基本としていた。丸亀藩は形式上、2人の町奉行の支配下にあったが、その下で大年寄3人と各町の町年寄(三浦の3町は庄屋)が中心となって治めていた。町年寄は各町に1〜2人置かれ、寛保元年(1741年)の史料では、14町で計21人となっている。

大年寄3人の筆頭格が町惣代として町方を代表した。また、大年寄と町年寄のつなぎ役として御用開役4人が元禄4年(1691年)に置かれ、町年寄からの申し出を吟味して、必要に応じて大年寄へ具申した。自治を行つた役所が「町会所」である。城下図では町の中央部、現在のふたば西保育園の辺りに町会所が記されている。

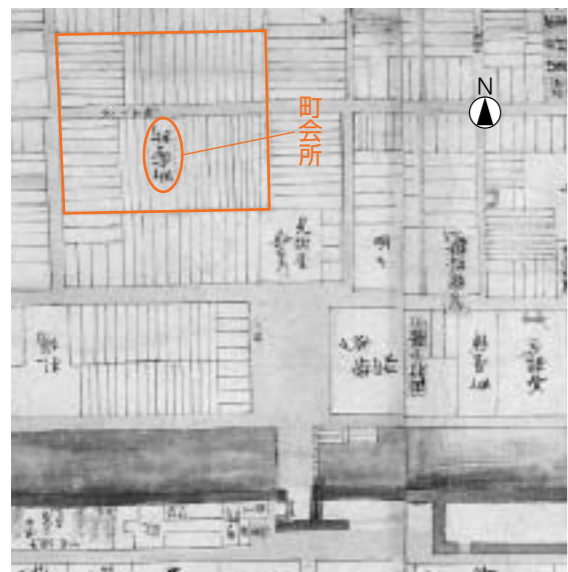
町の住民は大きく家持・地主と地借・店借に分けられるが、厳密な意味での町人とは、この

## 税の負担

うちの家持・地主のことである。税の負担者である彼らは、町年寄を中心とした自治の担い手であった。明和2年(1765年)の記録によれば、家数2625のうち家持831となっている。

町人に課された税負担は14町と三浦では異なっていた。福島町を除く13町には、戸銭と棒役があった。

戸銭は間役銀とも呼ばれ、家の間口の長さに応じて課せられる税である。間口一間につき190銭とされ、100銭を7月、残りの90銭を12月に納入した。棒役とは、戸ごとに決められた棒数に基づいて町内の役夫と入費を負担した役務である。町ごとに決められた棒数に応じた人数が、町普請や消火などの際に動員された。棒数は、家の間口とは関係なく、多くは一戸一本であったが、半本や数本の戸もあった。元禄年間に新しく成立した福島町



文政の丸亀城下図より：道の両側で一つの町を形成。町会所は豊屋町であることが分かる。

【郷土史家 濱近仁史】